

**思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導**  
**～言語活動の充実を通して～**

I 研究の内容

本部会では生徒の実態を踏まえ、上記のようなテーマでここ数年研究に取り組んできている。コミュニケーションツールの変化や人間関係の希薄化、情報があふれている現代社会において、生徒達にとってより良い人間関係を構築していくための表現力や、自分で考え判断し、必要な情報を取捨選択していく力が、今まで以上に必要となってくる。国語科の果たす役割はますます大きく大きなものとなっていくであろう。

本年度は「主張と根拠のつながりが明確な作文を書く」という内容で一本の研究授業を行った。四つの観点をもとに小グループでの相互評価を取り入れ、交流した意見を基に推敲した。説得力のある文章を書くために、生徒一人ひとりが自分の課題点を明確にし、自ら推敲する力をつけることを目指した実践である。

II 研究の成果

- 1 教材名 「主張と根拠のつながりが明確な作文を書こう」
- 2 目指す言語能力 主張と根拠のつながりを明確にし、説得力のある文章を書く力  
山梨北中学校 糠信恵理香教諭

3 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	<p>1. <u>目標を知る</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     主張と根拠のつながりが                      明確な作文を書く。                 </div> <p>2. <u>評価の観点を確認する</u>                      前時に使用したプリントに書かれた観点を見る。</p>	<p>評価の観点</p> <p>① 主張がはっきり書かれているか</p> <p>② 体験が主張の根拠になっているか</p> <p>③ 体験が具体的か</p> <p>④ 体験から考えたこと・学んだことが書かれているか</p>	<p>・ 観察</p>

<p>展開</p>	<p>3. <u>これからの動きを確認し、小グループを作る。</u></p> <p>4. <u>一人目の作文を読む。</u> 読み終わったら、評価をつけ、問題点や改善点がある場合は書き込む。</p> <p>5. <u>二人目の作文を読む。</u> 読み終わったら、評価をつけ、問題点や改善点がある場合は書き込む。</p> <p>6. <u>戻ってきた自分の作文につけられた評価を確認する。</u></p> <p>7. <u>自分の問題点を改善するためにはどう書き直すべきか考え、記入する。</u></p> <p>8. <u>書き直す。</u></p>	<p>これからの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計回りで作文を回す。</li> <li>・読んで評価する時間は五分。</li> <li>・二人目の作文も同じ流れで評価する。</li> <li>・五分間、質疑応答の時間をつくる。アドバイスの意図が分からない場合は質問するよう促す。</li> <li>・グループを解体させ、アドバイスを参考に改善すべき箇所をどのように直すべきか考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・話し合いの様子</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>9. <u>どのようなことに注意して書き直したかを発表する。</u></p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の内容</li> </ul>

#### 4 総括

あたたかい雰囲気の中で授業が行われ、生徒の意見交流も円滑に行われていた。指導案検討の段階では

- ・評価の観点をどのような内容で、いくつ設定するのが効果的か。
  - ・主張と具体例のつながりが明確な文章とはどのようなものをいうのか。
- などの討議がなされ、当日を迎えた。研究授業を受けて
- ・観点が絞ってあって良かった。
  - ・相互評価を取り入れることで、個人の問題意識も高まり、意図していた課題点に生徒自ら気づくことができていた。
  - ・「具体的」という言葉が理解できていなかった生徒も中にはいた。
  - ・書き直しを行う前と後でどのような変容があったのか、振り返りを行うことでより成果と課題を明らかにできるのでは。との討議が行われた。

また、本部会では小学校・中学校の二部会に分かれての研究体制をとっているが、それぞれの研究に加え、お互いの授業交流を図り、子ども達の発達段階に応じた指導方法を学び合っている。今年度も互いに授業提供をし、授業案検討や研究授業後の討議を行った。今後も小・中の連携を深めていきたい。(部長 小野 渚)